

社会的意義大きく受賞当然

大村智・北里大特別栄誉教授の最大の業績は、線虫類などの寄生虫に劇的な効果があるイベルメクチンという薬剤の開発だ。大村さんは土壌中の細菌などがつくるさまざまな活性物質を探すという根気のある仕事を続けていた。いつも袋を持ち歩いて土壌サンプルを集めている人だった。

東大名誉教授
黒川 清氏

くろかわ・きよし
36年東京都生まれ。東京大大学院博士課程修了。米カリフォルニア大教授、東大教授などを経て、07年同名誉教授。日本学術会議会長、国会福島原発事故調査委員会委員長を歴任。専門は内科学。



れた細菌が強い抗線虫物質をつくることを見つけた。これは、今回同時受賞するキャンベル博士との米メルクでの共同研究だった。

大村さんが実用化した物質は、当初は動物用医薬品として商品化され、1回動物に投与しただけで劇的な効果を示した。このため人間の薬としても実用化された。それまで人に寄生する線虫に効果を発揮する物質はほとんどなかった。

大村さんらが実用化した物質は、当初は動物用医薬品として商品化され、1回動物に投与しただけで劇的な効果を示した。このため人間の薬としても実用化された。それまで人に寄生する線虫に効果を発揮する物質はほとんどなかった。

大村さんらが実用化した物質は、当初は動物用医薬品として商品化され、1回動物に投与しただけで劇的な効果を示した。このため人間の薬としても実用化された。それまで人に寄生する線虫に効果を発揮する物質はほとんどなかった。

保健康機関(WHO)などが取り組んでいる河川盲目症撲滅作戦の中で中心的な役割を果たしているし、他の病気にも効果を発揮している。

熱帯感染症の撲滅は現代社会にとつての大きな課題で、大村さんらの業績には大きな現代的インパクトと、社会的意義がある。近年、ノーベル賞は、社会的意義の大きな業績に授与されるようになっており、今回もその好例だ。その影響力の大きさからすれば受賞は当然で、大村さんをよく知る者としてうれしい。

ノーベル賞の登壇ともいわれ、医学分野で重要な発見をした科学者をたたえるカナダ・ガードナー賞を昨年、受賞するなど業績は高く評価されている。

土壌細菌がつくる物質の発見は偶然ではあるが、そこに至るまでの努力は大きかった。山梨大を卒業、高校教師をした後、勉強をし直し、米国に渡って研究を続けるなどその経歴もユニークで、素晴らしい。何度かお会いしたことがあるが、明るくサバサバした性格が印象的だ。大村さんの受賞決定は、学問の主流でない所にいた人が世界的な成果をあげることが多いという点でも重要な。